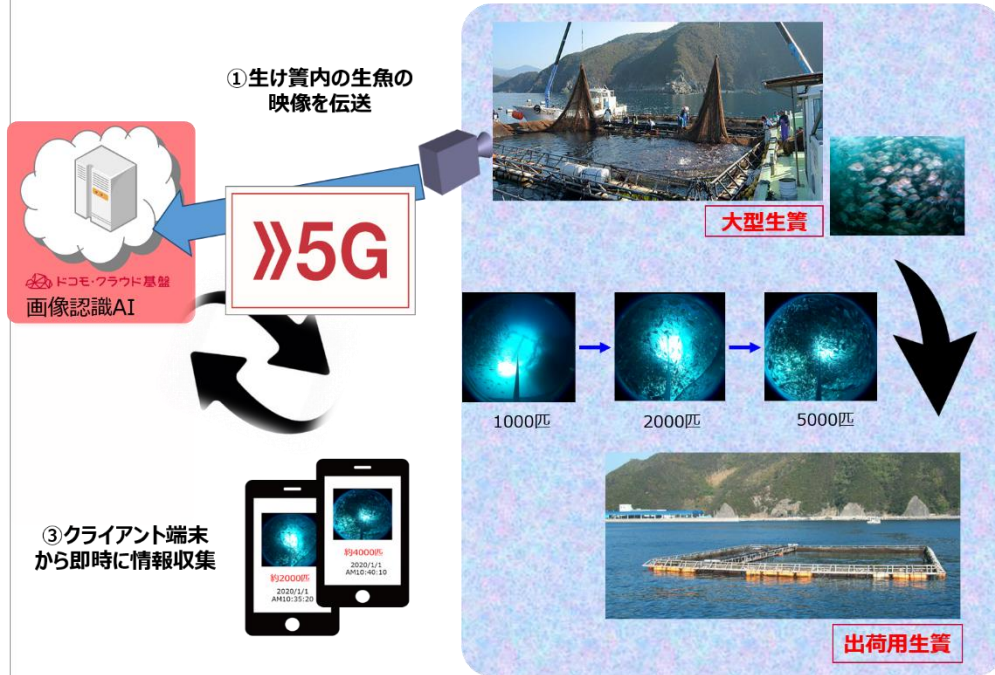


5G×画像認識AIを活用し、出荷用の生け簀の生魚の数を適正に管理



Before

養殖業者が目で匹数をカウント

- ★ 出荷用生簀移動で50%程の誤差が発生するケースあり
- 適正な餌の量が判断できない
- 余剰魚は廃棄になるケースもあり

After

5G×画像認識AIを導入することで

- 餌量の適正化
→ 餌量過多によるコスト高の抑制
- 適正な出荷管理が可能
→ 余剰の魚の管理コストの削減

概要

- 養殖業の現場では、出荷時期を向かえた生魚を生簀から出荷用の別の生簀へ移す際に、その適正数量を人間が判断しています。ドコモは画像認識AIを活用し、適正数量を測定するソリューションに取り組んでいます。
- 今回リサーチした養殖業者様では、生簀移動に数千匹の誤差・予定数の2倍発生することもあり、ビジネスインパクト(出荷量・餌付け量の非適正化)が大きいいため、ICTによる改善が望まれています。

利用シーン

- 画像認識により、生簀移動中の生魚の匹数を測定
- 5Gを利用し、クライアント端末よりリアルタイムに情報収集
- ディープラーニングを重ね画像認識エンジンの精度を高める

コラボレーションパートナー

真鯛の養殖業を営んでいる愛媛県南宇和郡愛南町の安高水産有限会社様から、養殖業者共通の本課題を伺いました。

ドコモとしてAIの精度をより高め、5G通信インフラをベースにソリューション開発に取り組んでまいります。

